

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月14日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|--|-------|-------------|
| 事業所番号 | 4271402085 | | |
| 法人名 | 有限会社 エイエムカンパニー | | |
| 事業所名 | グループホームほびある | | |
| 所在地 | 〒859-1503 長崎県南島原市深江町丙1899-2 (電話) 0957-65-1515 | | |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ローカルネット 日本福祉医療評価支援機構 | | |
| 所在地 | 〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階 | | |
| 訪問調査日 | 平成20年10月9日 | 評価確定日 | 平成20年11月14日 |

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|------------------|-----------------------|-------|
| 開設年月日 | 昭和・平成 16年 10月 1日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 15 人 |
| 職員数 | 13 人 | 常勤 4 人 非常勤 18 人, 常勤換算 | 4.8 人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|----------------|--|--|
| 建物構造 | 木造平屋 造り | | |
| | 1階建ての 階 ~ 1階部分 | | |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|-----------------|----------------|---------|
| 家賃(平均月額) | 3,000 円 | その他の経費(月額) | 9,900 円 |
| 敷金 | 有(円) (無) | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) (無) | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり 1,000円 | | |

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

| | | | | | |
|-------|---------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 15 名 | 男性 | 5 名 | 女性 | 10 名 |
| 要介護1 | 3 名 | 要介護2 | 3 名 | | |
| 要介護3 | 4 名 | 要介護4 | 3 名 | | |
| 要介護5 | 2 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 86 歳 | 最低 | 69 歳 | 最高 | 97 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|--------------------|
| 協力医療機関名 | 泉川病院・布井内科医院・上田歯科医院 |
|---------|--------------------|


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地の一画にあり、地域の中で自分らしく暮らせる「利用者本位」をモットーに生活している。ホームの横道が通学路であり、入居者は登下校の小学生をガラス越しに見守り喜びとしている。又、夏休みのラジオ体操に参加・近くの保育園から太鼓演奏の慰問・中学生の体験学習の受託等、子供達との触れ合いを大切にすることで、元気と活力を頂いている。車椅子の方を含めた殆どの入居者が散歩をし、リビングで会話やゲームを楽しみ、近くの勤労会館を借りてフーセンバレー大会やミニ運動会等、身体状況に配慮しながら支援している。また、マツケンサンバのリズムでホーム内を歩行する姿は微笑ましく生活の安定を感じられる。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|------|--|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 評価をサービスの向上の一端と考え、真摯に受け止め期待したい項目はメモを取りながら取り組んでいる。前回の評価に対し、自己評価は職員全員で取り組み、離職に関しては、入居者へ変わらぬケアの統一に努める事でカバーしており、できる事から積極的に改善しているが、改善計画シートの作成が無く、計画的に実施状況把握ができるようにする事が期待される。 |
| 重点項目 | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 自己評価は日頃のケアを振り返りユニットごとで話し合いを行い、記述後、運営者がまとめて自己評価票を作成している。自己評価を実施する事でホームの状況や不足を職員が自覚する機会として活用し、ケアの向上に活かしている。 |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) |
| | 2ヶ月毎に会議を開催している。構成メンバーは市町村代表・自治会長・食生活改善委員・家族の代表・運営者・職員であり、家族の声や地域の情報が聞け成果が上がっている。しかし、市町村での取り組み状況の違いや日中の会議で多忙な事もあり、担当者や他のメンバーの欠席があり、メンバー構成と議題に苦労している。ホームにとって負担が多いが、常時ではなく、季節や年1回の参加のお願いや、家族の訪問時等に議題を収集し間接的な参加方法を視野に入れる等、視点を変えて充実した会議の開催が期待される。 |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) |
| | 家族へは毎月請求書送付時に、運営者手書きのお手紙とホーム便りを同封し、ホームの状況や入居者の生活ぶりを知らせている。玄関に意見箱を設置し、いつでも意見や要望を聞くことをアピールしている。家族からの申し出は殆ど無いが、面会時の会話やケアプラン作成時、担当者会議出席時等に聞く機会を設けている。家族の会話で気になる点は日誌に記入し、運営に反映する努力をしている。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| 重点項目 | 住宅地の一画に位置し自治会に加入しており、地域の人には入居者である事を理解していただくように、声掛けに努めている。散歩時・夏休みのラジオ体操参加・グランドゴルフをしている人との会話・子供達の登下校の見守り等地域に自然に溶け込んでい。又、中学生の体験学習や地域ボランティアの受託等積極的に交流を図っている。 |

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|--|--|-------|---|
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 運営方針に地域とのふれあいを大切を謳い、理念に「個人の意見を尊重し個々にあった生活を」として、グループホームを特別の場所ではなく、地域の中で普通に暮らせる支援を実践している。 | | |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念を日々のケアの基本として、計画作成時の原点に考えている。職員は理念を念頭に置き、言葉使いに注意を払い、敬語や親しみの言葉掛けをしながら、家族と接するように日々のケアに努めている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 住宅地の一画に位置し自治会に加入している。散歩時・夏休みのラジオ体操参加・グランドゴルフをしている人との会話・子供達の登下校の見守り等地域に自然に溶け込んでいる。又、中学生の体験学習や地域ボランティアの受託等積極的に交流を図っている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価は日頃のケアを振り返り、ユニットごとで話し合いを行い記述後、運営者がまとめて自己評価票を作成している。前回の評価に対する努力は窺えるが、改善計画シートの作成は無く、計画的な取り組みとはいえない。 | | 自己評価の取り組みは全員で積極的に実施しているが、評価結果を実際のケアの向上に活用する為にも改善計画シートを作成し、計画的かつ実施状況の把握に努め、サービスの向上に活かすことが期待される。 |
| 5 | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月毎に会議を開催している。構成メンバーは市町村代表・自治会長・食生活改善委員・家族の代表・運営者・職員であり、家族の声や地域の情報が聞け成果が上がっている。しかし、全員参加は困難であり、市町村で取り組み状況の違いや多忙な事もあり、担当者や他のメンバーの欠席があると、会議内容が簡素化してしまい、メンバー構成と議題に苦勞している。 | | 運営推進会議のメンバー構成は、平日の日中の開催であることから、参加者が限られてしまい、ホームにとって負担が多いが、常時ではなく、季節や年1回の参加お願いや、家族の訪問時等に議題を収集し間接的な参加方法を視野に入れる等、視点を変えて充実した会議の開催が期待される。 |

グループホーム ほびある

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|---|--|-----|----------------------------------|
| 6 | 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 独居時に市営住宅の利用者や、公的扶助の利用者がおり福祉課の担当者が1～2ヶ月毎にホームに来所し、様々なお話をしている。又、近くの勤労者会館や運動場を利用する事があり、密接な関係を確立している。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 毎月職員が交代で、ホームの様子や入居者の写真を載せた便りを発行している。毎月の請求書と運営者の手書きの手紙と便りを郵送し、ホームでの生活状況を細やかに知らせている。又、金銭の授受は預かり金領収書の発行・出納帳・お買い物の領収書(原文は家族に、コピーをホームで綴る)等、明確にしている。 | | |
| 8 | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関に意見箱を設置し、いつでも意見や要望を聞くことをアピールしている。家族からの申し出は殆ど無いが、面会時の会話やケアプラン作成時、担当者会議出席時に聞く機会を設けている。家族の会話で気になる点は日誌に記入し、運営に反映する努力をしている。 | | |
| 9 | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員の様子や変化には注意を払い声かけや相談を受けているが、離職はやや多い。職員の交代で負担を掛けないように、常に入居者に統一したケアの提供を目指し、職員が一丸となってケアに努めている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 毎月スローガンを掲げ(10月・外気浴)、職員の責任ある取り組みに向け業務分担を兼ねて、感染症・身体拘束・事故報告等の委員に所属させている。月1度の職員会議や研修受講後は報告書を作成し、報告会を行っている。資格保持者が多く、専門学校の実習指定施設に登録があり、資格取得者の育成も行っている。 | | |
| 11 | 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホームケア研究会に所属し、参加・協力をしている。又、近隣や知り合いの施設とは情報交換・文化祭の参加等互いに声を掛け合い、交流を図りサービスの向上に取り組んでいる。 | | |

グループホーム ほびある

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|---|--|-----|----------------------------------|
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | <p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> | <p>病院や地域の連携によるケアマネージャーからの連絡で、入居希望者の状況を把握している。希望者の家族がホームを訪問する事が多く、重要事項説明書を基に説明し、納得を得て入居に至っている。入居後は帰宅願望の強い人は家族の面会を控えてもらう事もあるが、職員と一丸になりその人らしい生活に向け全力で取り組んでいる。</p> | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | <p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p> | <p>運営者を除いて入居者が職員より先輩であり、ホームで行う行事(運動会の種目・行事の指示・畑作業等)では経験と知恵を提案し、家庭の一員を担っており、職員が教わる部分が多く、互いに支えあいながら生活を楽しんでいる。</p> | | |
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> | <p>理念に謳っている個々の意見の尊重に重点を置き、基本情報やサマリーで情報を収集している。開設当初から運営者がスタッフの一員として日々のケアに当たっており、職員が困った時には指導を仰ぎ、家族との関わりを持ちながらその人に合った支援に努めている。</p> | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> | <p>職員が日々記入する、排泄チェック・バイタルチェック・日誌を参考に、入居者・家族の意向を踏まえケア会議で検討し、課題は多くせず、サービス内容は実施可能で簡潔に記述している。計画は作成後、家族の了解を得ている。作成後は職員がいつでも見る事が出来る場所に置き、共有し周知徹底を図っている。</p> | | |
| 16 | 37 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> | <p>アセスメントシート・ADLチェック(6ヶ月)・モニタリング(1ヶ月)で状態チェックを実施し、担当者会議を開催して、3ヶ月・6ヶ月、又、状況の変化に応じて、現状に即した計画を作成している。</p> | | |

グループホーム ほびある

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------------|----|--|---|-----|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 入居者や家族が安定した生活を維持できるように、医療連携・病院受診・往診・重度化に伴う終末期の支援・音楽療法・宿泊等、家庭と変わらない生活に向け、柔軟に支援を実施している。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居者の掛かりつけ医に重点を置きながら、協力医療機関や必要に応じて専門医の受診・往診等を行い、安心して生活できる適切な医療を選びながら支援している。 | | |
| 19 | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 家族の希望と入居者の状況を加味し、看取りを実施する意向であり、現在まで2名の看取りを経験している。緊急時の対応マニュアルを作成し、連絡体制を明確にして、ホームの状況を見ながら無理をしないで看取りの実施をしていく方向で、職員と常に話し合いを行っている。 | | |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 情報の漏洩には注意を払い、個人情報に関する書類は薬と一緒に事務所に施錠して保管している。日々のケアでは、失禁時は居室でケアをし、居室入室の際はロックをする等、言葉かけやケアに敬意を払いながら支援している。 | | |
| 21 | 52 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者の望む過ごし方(散歩・畑仕事・花壇の手入れ等)を優先し、ペースを尊重し、ここでの生活の主人公は誰であるか理解して、管理することなく生活を楽しめるように支援している。 | | |

グループホーム ほびある

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|--|--|-----|---|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | ホームの庭に菜園があり、食卓を賑わせることがあり、入居者の何よりの楽しみである。又、出来る人は準備・下膳・お絞りの後片付け等一連の作業をしている。職員は食事介助と休憩時間確保の為に一緒に食事はしていない。運営者と夜勤者は、利用者と同じ食事を食している。 | | |
| 23 | 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 基本的には週3回で、夏場は殆ど毎日シャワー浴を実施している。浴場が広く入居者は仲間と一緒に入浴している。入浴を拒否される方がいたが、入浴剤等で工夫することで克服し、現在拒否者はなく入浴を楽しんでいる。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 入居者の方々は、現在の生活を楽しんでいる様子で、畑仕事・水遣り・掃除・下膳・テーブル拭き・洗濯物たたみ・自己管理しているお金で買い物・電話・手紙等、できる事を率先して行い、家族の一員としての役割を持ち、持っている力を発揮し活気に繋げている。 | | |
| 25 | 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 今月のスローガンは「外気浴」で、散歩・花見・紅葉見物・買い物・外食・ラジオ体操等できるだけ外に出る機会を設けている。毎日、日当たりの良い廊下をマツケンサンバの音楽に合わせて歩いており、活動を取り入れた支援をしている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 現在の入居者は落ち着いており、徘徊者はなく日中は玄関・居室に施錠は行っていない。近隣のお店や郵便配達の人とは話しをして、覚えて貰うようにしている。又、グループホーム連絡体制を確立し、万が一の対応マニュアルと対処方法に沿って準備をしている。 | | |
| 27 | 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年2回消防署の立会いで消火・避難訓練の実施と機器の点検実施をし、非常時に備え懐中電気や携帯コンロを設置している。以前、夜間を想定した訓練実施をした事があるが、近年は実施していない。又、天災の訓練実施は無く、備蓄まで至っていない。 | | 地域に協力依頼はしているが、実際に参加しての訓練実施は無く、自然災害時(台風・土石流・地震等)の避難・夜間を想定した訓練・地域の住人参加の訓練等の実施が期待される。又、災害に伴う備蓄に関する検討が望まれる。 |

グループホーム ほびある

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------|----|--|---|-----|----------------------------------|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 月1回の体重測定をしながら、食品分類表を基にミキサーや刻みや栄養補助食品で状態維持に努め、状態に必要が生じた時は、医師に相談し指示を仰いでいる。又、朝食の牛乳を含め1.5～2の水分補給を声掛けしながら不足しないよう支援している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 住宅地の一画にあり、閑静で日当たりが良く、空気のよどみを感じることなく、菜園・花壇・コスモスの花等季節を感じる事が出来、ホームの中心部分のリビングに畳を敷きソファを置き、談話やレクリエーションが出来る楽しい集会所や、廊下の突き当たりに椅子を置き、それぞれ過ごせる場所を提供している。 | | |
| 30 | 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居者の好みや状況でフローリングや畳を置き、変化のある居室である。それぞれかつての生活を感じさせる居室作りができています。収集癖の入居者には日中はカーテンを外し張り紙でお知らせし、夜間は設置する等、細やかな配慮が窺える。 | | |